

現代中国語の副詞“还”の再考

A Reconsideration of the Chinese Adverb *Hai*

伊藤 大輔
Daisuke ITO

Abstract

The modern Chinese adverb *hai* is well known for its various usages. So far, they have been discussed and classified by many researchers from various points of view. This study reconsiders the current classifications and suggests an alternative interpretation of them, mainly depending on the notion of Sweetser 1990 that the three domains of content, epistemic modality and speech acts should be distinguished from each other. Through this approach, it is possible for us to obtain a more systematic interpretation of the many usages of *hai*. Moreover, we also try to offer a useful viewpoint on the field of Chinese language education.

Keywords : Chinese adverb *hai*, polysemy, modality, pragmatics

キーワード：副詞“还”，多義性，モダリティ，語用論

0. 副詞“还”の多義性

現代中国語の副詞“还”は、多様な意味用法を持つことで知られている。まず最初に、各用法の代表的な例を列举しておく。

- (1) a. 他还在图书馆。「彼はまだ図書館にいる⁽¹⁾。」
- b. 还不过五点钟，他就已经起床了。「まだ5時にもならないのに、彼はもう起きた。」
- c. 除了他们三个以外，小组里还有我。
「彼ら3人の他に、クラスには私もいる。」
- d. 这根绳子还比较结实。「このロープはまあまあ丈夫だ。」(以上吕叔湘主编 1999)
- e. 他比你还胖。(作例)「あいつはおまえよりずっと太っている。」
- f. 小车还通不过呢，就别提大车了。(沈家煊 2001)
「小型車でさえ通れない、まして大型車はなおさらだ。」

g. 连这个字也不认得，亏你还上过大学呢。(同上)

「こんな字も知らないなんて、君はそれでも大学に行ったことがあるのか。」

h. 这还是你买的酒呢。(高増霞 2002)

「これ実は君が買ってくれた酒なんだよ。」

i. 谁说我不怕呀，我这就怕了。(张宝胜 2007)

「怖くないなんて誰が言ったんだよ。僕は言っとくけど怖いんだ。」

j. 你再撵我我还不走了。(同上)

「君が追い払うんならなおさら僕はここに居座るよ。」

k. 你还别不信，一会儿就叫你知道老子的厉害。(同上)

「悪いけど疑っちゃいけない。後で俺の凄さを思い知らせてやるから。」

(1a) は、様々な研究で“持续”，“仍然”といった意味を表す例として広く言及されてきた例で、「まだ，相変わらず」といった日本語に対応する。(1b) については，“变化过早”(高増霞 2002)，“早时义”(谢白羽 2011) といった指摘がある。(1c) については，“重复”，“递进”，“增加数量”，“范围扩大”の他，textual connective(Yeh 1998) といった指摘も見える。概ね「さらに，そのうえ」といった日本語に対応する。(1d) は马真1984が“程度浅”“勉强过得去”などとした例で，日本語に直せば「まあ，そこそこ」となる。逆に，(1e) は陆俭明 1980が“程度深”とした例で，「さらに，なお」といった意味になる。(1fg) になると意味はさらに抽象的になり，沈家煊 2001はこれらの意味の本質を“元语增量”(メタ言語的增量)と称している。(1h-k) については，“主观性”(张宝胜 2003; 2007 etc.)，“反预期”(武果 2009，郑娟曼 2009)，“expectation contradiction”(Yeh 1998) など，話者の主観に依存するモダリティ的な意味を表すとの指摘が目立つ。

以上，先行研究による諸説をごく大雑把に紹介したが，それだけでも副詞“还”の意味用法は単純ではなく，複雑かつ広大な範囲に及ぶものであるということを見せるには十分である。小論は，こうした諸用法の分類について再考を行い，一部に修正を加えた上で，より体系的な解釈を得ることを目的とする。以下，第1節では具体例に触れる前の下準備として，まず，多くの先行研究に挙げられた定説と言うべき「持续」という概念について再検討し，それに若干の補足を加えた代替案として新たに「未亡」という概念を導入する。次に，Sweetser 1990の唱える3つの領域の概念を導入し，小論の議論への応用を図る。続く第2節では，第1節の議論に基づくことにより，様々な具体例の体系的な解釈可能であることを示す。さらに第3節では，小論の方法がいかに中国語教育の現場に応用可能かという点について，その可能性を探ることにする。

1. 理論的背景

1-1. 「持続」再考

副詞“还”の根幹的、ないし包括的な意味として諸研究で頻繁に挙がるのが「持続」(中国語では“持续”“继续”など)である。小論もこの「持続」という概念を大筋において受け容れた上で、“还”の様々な用法の解釈を試みるものであるが、本節ではそれに若干の補足を加え、“还”の基本的意味を改めて記述し直すことにする。

常識的、日常言語的に捉えるならば、「持続」とは「同じ状態が変わらずに続いている」と言い換えることが可能であろう。それはたとえば、吕叔湘主编 1999:252にある“持续不变”という記述などにも端的に表れている。そこに挙げられた“他还在图书馆”を例に採れば、「彼が図書館にいる」という状態が発話時以前から変わらずに続いていることが“还”によって示されている、という説明には異論の余地がないように思われる。

問題は、それが“还”の意味の記述としてたとえ必要条件を満たしているとしても、果たして十分であると言えるかどうかという点である。実際、諸研究による“还”についての記述の中には、上記の「持続」だけでは捉え難い部分が含まれている。たとえば、Yeh 1998は“小王还在睡觉”という例について、次のように述べている。

- (2) (“小王还在睡觉”は)in addition to the temporal continuance of the situation, implies the speaker's expectation that Xiao Wang should have gotten up at the speaking moment. (Yeh 1998:258)

つまり、temporal continuanceすなわち持続に加え、発話時点において変化しているべきであるという発話者の予測が仄めかされるのだという。類似の指摘は、原1992にも見られる。

- (3) 時間的連続性のなかで、“素材”としての事象を可変的なものとして把握し、‘マダ’と同様に前提事象と現実事象との関係を規定する。即ち、発話時以前Pで変化するという前提に対し、現実には、発話時Oには変化せず、発話時以降Qで変化する。(原 1992/1997:320, 下線引用者)

また、大島 2000:12は、「“还”の基本義」として「本来目標とすべき点に至らないという未到達の語気」を挙げている。さらに、中桐 1997:13は、“今天比昨天还冷”のような比較文における“还”について「最大値であると想定したものが実際には最大値ではなかったという想定と現実の間の矛盾を述べ立てる機能」があると指摘する。このように、“还”について「持続」のみでは捉えがたい言外の意味を指摘した研究は複数存在する。

アスペクト助詞“过”に関する吕叔湘主编1999による指摘も、ここでの議論にとって示唆的である。そこでは、“过”が“曾经”を表す用法と“完毕”を表す用法の2つに分類され、両者

に違いは否定形の違いに現れるということが指摘されている。

(4) a. 吃过小米——没吃过小米

「アワを食べたことがある——アワを食べたことがない」

b. 吃过饭了——还没吃呢

「食事を済ませた——食事を済ませていない」(呂叔湘主編 1999:247, 下線引用者)

(4a)が“曾经”，一方(4b)が“完毕”の例で，それぞれ左が肯定形，右が否定形であるが，(4b)の否定形に“还”が用いられている点に注目したい。北京大学中文系 1955 1957级语言班編 1982/2010:218も，“过”を同様に2種類に分類しているが，“完毕”に当たる用法の意味を“表示悬想将要发生的事情或假设要发生的事情成为过去”(下線引用者)と記述している。下線部の「間もなく発生すると想像した」「発生すると仮定した」という部分は，“完毕”を表す“过”の用いられた文の肯定・否定を問わず常に付随する言外の意味，すなわち前提(presupposition)であると考えられる。以上を踏まえれば，たとえば(4b)において，肯定形と否定形はどちらも「食事が済まされる」という事態が発生すべきであることを前提としており，否定形の場合は“过”に代わって“还(…呢)”がその前提を示す機能を担っている，という推論が可能である。そしてこの前提は，上で見た諸研究がそれぞれ“还”について指摘した言外の意味に相当するものと考えられる。それらの共通点は，「(事態の発生やあるレベルへの到達といったものも含めた広い意味で)既に変化しているべきである」という点に集約される。

以上のように，“还”の意味を特徴づけるには，従来指摘されてきた「持続」だけでは不十分で，それに加えて「既に変化しているべきである」という前提も不可欠であると考えられる。すなわち，“还”は単に「持続していること」を表しているのではなく，「**変化しているべきであるにもかかわらず持続していること**」を表すのである。また，ある状態が変化するとは，若干視点を替えれば元の状態が消滅するということでもある。小論では，特にこの視点に依拠することで，“还”の諸例に通底する一貫性に迫ることとする。

以上に鑑み，以下小論では，「持続」に「既に変化=消滅しているべきである」という前提を加えた概念を簡便のため「未亡」と呼び，単なる「持続」とは区別することにする。そして，この未亡という概念が“还”の様々な例を解釈する上で有用であり，その意味において“还”の根幹的・包括的な意味と呼ぶに相応しいということを主張する。

1-2. Sweetser 1990の3領域

Sweetser 1990は，同じく becauseの用いられた次の3例の違いを問題にする。

(5) a. John came back because he loved her.

「Johnは帰ってきた。なぜなら彼は彼女を愛していたから。」

- b. John loved her, because he came back.

「Johnは彼女を愛していた。というのは彼は帰ってきたから。」

- c. What are you doing tonight, because there's a good movie on.

「今晚何か予定ある？ 面白い映画をやっているけど。」

接続詞becauseは「原因・理由」を表すものとされるが、Sweetser 1990によれば、同じ原因・理由と言っても、(5a-c)はそれがどういった領域に属するかという点において互いに異なる。まず、(5a)においてbecauseで示されるのは、“he loved her”が現実世界において“John came back”の原因・理由であるということであり、この因果関係は内容(content)領域に属する。一方(5b)の場合、“he came back”は“John loved her”の現実世界での原因・理由ではなく、“John loved her”という推論が導かれる原因・理由であり、因果関係は(5a)と異なり認識(epistemic modality)領域に属する。さらに、(5c)の“there's a good movie on”は(5a)と(5b)のどちらの場合とも異なり、“What are you doing tonight?”という発話がなされる原因・理由であり、因果関係は発話行為(speech acts)領域に属する。以上の3つの領域において、原因・理由のbecauseは、意味的にそれぞれ概略次のような様相を呈する。

(6)

内容領域のA because B	BなのでAである
認識領域のA because B	BなのでAと推論する
発話行為領域のA because B	BなのでAと発言する

なお、沈家煊 2001は(5a-c)にそれぞれ対応する次の(7a-c)を挙げ、同様のことが現代中国語についても言えるということを主張している。

- (7) a. 张刚回来了, 因为他还爱小丽。

「張剛は帰ってきた。なぜなら彼はまだ小麗を愛しているから。」

- b. 张刚还爱小丽, 因为他回来了。

「張剛はまだ小麗を愛している。というのは彼は帰ってきたから。」

- c. 晚上还开会吗? 因为礼堂里有电影。

「夜も会議がある？ 講堂で映画をやっているけど。」

この3つの領域の区別に則った上で副詞“还”の諸用法を記述した研究に、高増霞 2002がある。同研究は、“还”の基本的意味を“延续”としているが、これはこれまでに見た「持続」と同様の観点であると考えられる。また、“还”には序列を顕在化させる作用があり、その序列がSweetser 1990の3つの領域のどれに属するかによって“还”の諸用法も3つに分類されるとい

う。

まず、次のような例は内容領域に属し、時間軸、すなわち時間の前後の序列における持続が表されるという。

- (8) a. 他还在图书馆。(= (1a))
 b. 还不过五点钟, 他就已经起床了。(= (1b))
 c. 除了他们三个以外, 小组里还有我。(= (1c))

一方、次のような例は認識領域に属し、典型性の序列における持続が表わされることになる。概略、典型的なものとそうでないもの間に生じる序列において、ある性質が持続、すなわち変わらず存在している、といった意味合いである。

- (9) a. 这根绳子还比较结实。(= (1d))
 b. 他比你还胖。(= (1e))
 c. 小车还通不过呢, 就别提大车了。(= (1f))

最後に、次のような例は発話行為領域に属し、適切性条件の序列における持続が表わされることになる。概略、適切な発話とそうでないもの間に生じる序列において、その発話が変わらず存在している、といった意味合いである。

- (10) a. 连这个字也不认得, 亏你还上过大学呢。(= (1g))
 b. 这还是你买的酒呢。(= (1h))

小論も、同様の着想に基づいて“还”の諸用法への体系的な解釈を試みるものであるが、高増霞 2002とは見解を異にする部分がある。次節では、その点も含めつつ具体例の記述を行うことにする。

2. 諸例の解釈

1-1において、“还”の包括的意味を「未亡」と捉えるべきであることを主張した。“还”の多義性は、その未亡という意味が1-2で紹介した3つの領域のうちのどれに属するかの違いに帰着するものと考えることが可能である。その点について、以下で詳しく見ていくことにする。

2-1. 内容領域における未亡

内容領域における未亡は、次のように一般化して記述することができる。

(11) 現実世界において、存在しなくとも不思議でない状態sが存在する。

具体例を観察してみる。まず、次の2例が内容領域に属するとする高増霞 2002の見解には、小論においても異論がない。違いは、1-1で主張したように持続という概念を未亡という概念に補足・修正した点だけである。

- (12) a. 他还在图书馆。(= (8a))
 b. 还不过五点钟, 他就已经起床了。(= (8b))

いずれも内容領域における未亡を表すと捉えることができる。(12a)において状態sに相当するのは、「彼が図書館にいる」という状態である。それが既に消滅しているべきなのに、実際には消滅せず同じ状態が持続している、ということをも(12a)は表している。また(12b)において、sに相当するのは「5時前である」という状態である。それが変化して5時を回っていてもおかしくない時間帯なのに、実際には相変わらず5時前である、ということを表している。

高増霞 2002が同じく内容領域とした(8c)については、小論では別の解釈を採る。

2-2. 認識領域における未亡

内容領域において未亡であるのは現実世界における状態であったが、認識領域において未亡であるのは推論の過程における命題であると考えられる。一般化して記述すると次のようになる。

(13) 推論の過程において、成立しなくとも不思議でない命題pが成立する。

まず、比較文に用いられる“还”はこのケースに該当する。

- (14) a. 他比你还胖。(= (9b))
 b. 二勇比他哥哥大勇还壮。「二勇は兄の大勇よりずっと体が丈夫だ」

(14a)においてpに当たるのは、「彼は太っている」という命題である。一見太って見える「彼」も、比較の対象が増えるに連れてpと断定できなくなる可能性が増すが、それでも変わらずpが成立する、という意味での未亡が表されている。(14b)についても同様のことが言え、pに当たるのは「“二勇”は体が丈夫だ」である。

次に、程度が低いことを表すとされるタイプの例もこれに該当すると考えられる。

(15) a. 这根绳子还比较结实。(= (1d))

b. 这张画画得还可以。「この絵はそこそこ上手に描けている。」

(15a)においてpに当たるのは、「このロープは丈夫だ」である。ロープは本来一定の強度を持つものであるが、強度というのは相対的なものでもあり、「このロープ」のみを見ただけだとpが成立すると断定することは必ずしもできない。しかし、そうした状況にありながら、他のものと比較した結果、相対的に見て「丈夫だ」と断定できる、すなわちpが成立するという結論が得られた、という意味で、(13)に合致している。(15b)は、p=「この絵は上出来だ」で、(15a)と同様のことが言える。

さらに、次の例も同様の解釈が可能である。

(16) 小车还通不过呢，就别提大车了。(= (9c))

ここでpに当たるのは「小型車が道を通行できない」である。常識的に考えて、小型車というのはあらゆる道を通行できる可能性が高いはずであるが、それにもかかわらずpが成立している。

最後に、前節2-1の末尾で触れた(8c)であるが、これも認識領域の例と解釈することが可能である。

(17) 除了他们三个以外，小组里还有我。(= (8c))

一般に「追加」、すなわち「Aに加えてさらにB」という意味を表す、などとされる例である。ここでpに当たるのは「クラスのメンバーとして誰かが挙がる」である。「彼ら3人」等メンバーの候補が上がっていくにつれ、新たに候補が挙がる可能性は低くなると考えられるが、それにもかかわらず“我”が挙がる、すなわちpが成立している。

2-3. 発話行為領域における未亡

発話行為領域では、現実世界とも推論の過程とも異なって談話の場面が舞台となり、また“还”の作用する対象は発話となる。発話行為領域における未亡を一般化して記述すると、次のようになる。

(18) 談話の場面において、為されなくとも不思議でない発話uが為される。

まず、次の例が該当する。

(19) 连这个字也不认得，亏你还上过大学呢。(= (10a))

ここでは“你上过大学”という発話がuに相当する。「この（易しい）文字すら知らない」という場面において、「大学に通ったことがある」という発話は相応しくないものであるが、それにもかかわらず為されている、という意味での未亡が表されている。

次の例も、認識領域に属する。

(20) 这还是你买的酒呢。(= (10b))

これは客として自宅に招いた相手に向けた台詞であるが、客をもてなすのに客自身がかつて贈った酒を振る舞うことは通常不適切である。すなわち、“这是你买的酒呢”という発話はこの場面に相応しいものではなく、つまりuに相当する。

张宝胜2007の挙げる次の諸例も、同列に論じることが可能である。

(21) a. 谁说我不怕呀，我这就怕了。(= (1i))

b. 你再撵我我还不走了。(= (1j))

c. 你还别不信，一会儿就叫你知道老子的厉害。(= (1k))

(21a)では、u=“我就怕了”である。“我”が怖がっていないだろうと予測している聞き手にとってあるまじき発話であるuを取上げて為すことが、“还”によって示されていると考えられる。一方(21b)では、u=“我不走了”である。これも同様に、相手にとってはあるまじき発話が取上げて為されている。また(21c)では、u=“你别不信”である。これもまた同様に、自分を見くびっている相手にとって、「信じる」というのは意表を突く、あるまじき発話であると言える。

さらに、発話uは名詞句のみであっても構わない。郑娟曼 2009の挙げる次のような“还NP呢”の例も、やはり同列に論じることができる。

(22) a. 这个字都不认得，还博士呢！

「こんな字も知らないなんて、それでも博士か！」

b. 你跟你男朋友何时结婚啊？——还男朋友呢，我们是大学同学。

「彼氏といつ結婚するの？——何が彼氏よ、私たちただの大学の同級生よ。」

c. 听口音你是外地人吧？——我还外星人呢！

「言葉の調子からして君はよその人だろう？——いや宇宙人さ！」

(22ab)において、uに当たる発話はそれぞれ“博士”“男朋友”で、いずれもやはり場面に相応しくない発話である。また(22c)では、u=“我外星人”であり、これはこの場面においてもそうであるが、そもそもどんな場面であっても通常為されるとは考えられない奇抜な発言であ

ると言えよう。

また、比較文については既に2-2で認識領域の例として取り上げたが、比較文の一部には発話行為領域に属すると考えられるものも存在する⁽²⁾。

- (23) a. 他的死是比泰山还要重的。「彼の死は泰山よりもはるかに重いものである。」
 b. 他比诸葛亮还诸葛亮。「あいつは諸葛孔明よりも諸葛孔明らしい。」

これらは前節2-2で見た比較文とは異なり、物理的には決してあり得ない事態を述べることにより、ある事態を比喩的に誇張して述べた、いわばレトリカルな比較文である⁽³⁾。「彼の死は泰山よりも重い」にせよ、「あいつは諸葛孔明よりも諸葛孔明らしい」にせよ、文字通りに解釈すれば現実には決して起こり得ないことであるが、起こり得ないことを口にするのは現実に行えるのである。

(23a) ではu = “他的死是比泰山重的”で、人間の死の重量を論じることといい、それが山1つの重量を超えることといい、少なくとも文字通りの意味で捉える限りはナンセンスなことであるが、それを敢えて為すということが“还”の使用につながっている。一方、(23b)でuに当たるのは“他比诸葛亮还诸葛亮”という発話自体であると考えられる。文字通りに捉えれば、「諸葛孔明よりも諸葛孔明である」という言い方からして荒唐無稽と言えるが、それを敢えて言っている。

次のように、ストレスの位置により意味が違ってくるケースもあるので要注意である。

- (24) a. 他比你¹还胖⁽⁴⁾。(= (14a))
 b. 他比¹你还胖⁽⁵⁾。「あいつはおまえよりも太っていると言ってもいいくらいだ。」

(24a) については2-2で既に述べた。(24b) は表記上それと完全に同じであるが、ストレスの位置が異なる。陆俭明 1980:195によれば、(24a)が“比较”を表すのに対し、(24b)は“比拟”を表す。“比拟”とはここで言うレトリカルな意味を指すものと考えられ、(24b)の“你”は誰にも追い越せないほど太った人物だということになる。

3. 教育への応用

本節では、以上の議論を踏まえることにより、中国語教育の現場にどのような視座を提供することができるか、という点について述べておくことにする。

多義性を持つ語彙を学習者に提示する際によくあるパターンの1つは、段階を追って各用法を別々に提示するというやり方である。“还”を例に採れば、ある課では「まだ」を学び、別の課では「その上」を学ぶといった具合で、ちょうど辞典の注釈の項目を1つずつ増やしていくような学習になる。そうして一定の項目が揃った後は、実例に当たる度にそれらの中から最適

な項目を探し出し、文意を解釈することになる。

こうした方法の問題点を挙げてみたい。まず、複数の意味項目を1つ1つ別個に提示するだけでは諸用法同士の関係が明らかでなく、一見無関係な項目をランダムに暗記する作業に流れがちである。すると、「この語彙にはどんな意味があるか (how)」は把握できても、「なぜ同じ語彙がこれらいくつもの意味を持つか (why)」は把握できない。言い換えれば、派生的な意味用法が派生される具体的なプロセスが明らかではない。これは、記憶の効率や学習者自身の理解・納得の度合いに係わってくるものと考えられる。また、様々な実例に接していると、目にするのははっきりと1つの項目に該当する例ばかりではないと推測される。中には、2つ以上の項目に跨ると思われる例や、どの項目も完全には当てはまらないといった例も出てくるはずである。その場合も、諸用法同士の関係が明らかになっていないと、それ以上解釈することが困難になると考えられる。

小論が上で採った方法は、同一の語彙の諸用法同士の関係を学習者に把握させる上で、有用な視座を提供し得るものであると考える。上の議論を簡潔にまとめるならば、副詞“还”は未亡という意味を根幹に持ち、それが作用する3つの領域の違いに伴って様々な意味合いを呈する、ということであるが、その議論を通して諸用法同士の関係も既に一定程度明らかになったと言って過言でないと思われる。これにより、“还”の同一性と多様性の双方について一貫した説明が可能である。また、上では諸用法を3つに分割する形で記述を行ったが、これは便宜上のもので、3用法が相互に排他的な関係にあると主張するものではない。発話行為領域において予想外の発話が為される理由の1つとしてあり得るのは、認識領域において予想外のことを実際に認識したからであり、さらに、予想外のことが認識される理由の1つとしてあり得るのは、内容領域において予想外のことが実際に存在するからである。このような形で3つの領域は互いに重なりまた関連し、それぞれの間に明確な境界があるとは必ずしも言い切れない側面がある。その点に留意すれば、辞書上のどの1項目に該当するか明らかでない例にも、本論で整理した諸用法の兼用や、複数の用法に跨る境界例として処理する道が開かれる。

最後に、ここでは日本語話者への教育の現場を想定した上で、有効と考えられる諸用法の意味の提示法を記すことにする。まず、根幹となる未亡という意味を端的に捉えた日本語の語彙としては「まだ」が考えられる。そこで、まず“还”=「まだ」と押さえた上で、上で内容領域に属するものとして挙げた例を提示する。

(25) 「まだ」

(内容領域における「まだ」: 存在しなくとも不思議でない状態の存在)

他还在图书馆。 「まだ」

还不过五点钟，他就已经起床了。 「まだ…の頃」

次に、同じく「まだ」でありながらも上の例とはレベルの異なる「まだ」があることを指摘

し、認識領域に属するものとして挙げた例を提示する。

(26) 「まだそう判断できる」

(認識領域における「まだ」: 帰結されなくとも不思議でない命題の帰結)

他比你! 还胖。	「比べても <u>まだ</u> そう判断できる」
这根绳子还比较结实。	「比べれば <u>まだ</u> そう判断できる」
小车还通不过呢, 就别提大车了。	「であっても <u>まだ</u> 」→「さえ, すら」
除了他们三个以外, 小组里还有我。	「他にも <u>まだ</u> 」→「そのうえ, さらに」

「さえ, すら」や「その上, さらに」という訳を別途提示するとしても、ここに示したようにあくまで「まだ」からの派生であることを押さえるようにする。

そして最後に、さらにもう1つ別のレベルに属する「まだ」があることを指摘し、発話行為領域に属するものとして挙げた例を提示する。

(27) 「まだそう言う」

(発話行為領域における「まだ」: 為されなくとも不思議でない発話の遂行)

连这个字也不认得, 亏你还上过大学呢。	「場違いだと思っても <u>まだ</u> 言う」
这个字都不认得, 还博士呢!	→「なんと, 言うに事欠いて」
他的死是比泰山还要重的。	「大袈裟だと思っても <u>まだ</u> 言う」
他比! 你还胖。	→「言っても過言でない」

発話行為領域の例の中でも、次の例は周辺のなものと考えられ、とりわけ初級者には説明がしにくいものであることが予測されるが、学習が一定段階まで進んだ学習者に対してであれば、同様の説明をしても差支えないであろう。

(28) 这还是你买的酒呢。

谁说我不怕呀, 我就怕了。

你再撵我还不走了。

你还别不信, 一会儿就叫你知道老子的厉害。

「相手の予想を裏切ってもまだ言う」

→「悪いが, 言っておくが」

※ 小論は、中国語教育学会関東地区11月研究会(2011年11月26日 於目白大学)で筆者が行った口頭発表が基盤になっている。その際に貴重なご意見をくださった諸氏に心よりお礼申し上げる。

【注】

- (1) 以下、用例の日本語訳は全て引用者(伊藤)による。
- (2) 高増霞2002では、比較文はいずれも認識領域の例とされている。
- (3) 両者の違いはまた、形式にも現れる。すなわち、2-2で見たような通常の比較文では“还”を“更”に置き換えても文が成立するが、こうしたレトリカルな比較文では“还”を“更”に置き換えると不自然になる。
- (4) 「!」は直後の要素にストレスが置かれることを示す。
- (5) なお、谢白羽 2011:69によれば、3つ目パターンとして“他比你还!胖”が考えられる。この場合“你”は太っていないということが含意され、「あいつはおまえと違って太っている」の意。

【参考文献】

- 大島潤子 2000.「副詞“还”についての一考察」,『お茶の水女子大学中国文学会報』第19号:1-14頁。
- 中桐典子 1997.「“比”構文における“更”と“还”」,『お茶の水女子大学中国文学会報』第16号:1-14頁。
- 原由起子 1992/1997.「“还”と時間副詞——日本語との比較から——」,『日本語と中国語の対照研究論文集』:315-343頁。東京:くろしお出版。
- 北京大学中文系1955 1957级语言班编 1982/2010.『现代汉语虚词例释』。北京:商务印书馆。
- 高増霞 2001.「也谈“还”与“更”」,『汉语学报』第4期:61-64頁。
- 2002.「副词“还”的基本义」,『世界汉语教学』2002年第2期:28-34頁。
- 陆俭明 1980.「“还”和“更”」,『语言学论丛』第6辑:191-209頁。
- 吕叔湘主编 1999.『现代汉语八百词』。北京:商务印书馆。
- 马 真 1984.「关于表示程度浅的副词“还”」,『中国语文』1984年第3期:166-172頁。
- 沈家煊 2001.「跟副词“还”有关的两个句式」,『中国语文』2001年第6期:483-493頁。
- 2003.「复句三域“行,知,言”」,『中国语文』2003年第3期:195-204頁。
- 武 果 2009.「副词“还”的主观性用法」,『世界汉语教学』2009年第3期:322-333頁。
- 谢白羽 2011.「“还”的主观性及其句法实现」,『汉语学习』2011年第3期:65-70頁。
- 杨淑璋 1985.「副词“还”和“再”的区别」,『语言教学与研究』1985年第3期:57-61頁。
- 张宝胜 2003.「副词“还”的主观性」,『语言科学』2003年第5期:71-76頁。
- 2007.「“还Xp呢”的歧义与主观性」,沈家煊·吴福祥·李宗江主编『语法化与语法研究(三)』:319-334頁。北京:商务印书馆。
- 郑娟曼 2009.「“还NP呢”构式分析」,『语言教学与研究』2009年第2期:9-15頁。
- Sweetser, E. 1990. *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yeh, M. 1998. On *hai* in Mandarin. *Journal of Chinese Linguistics* 2: 236-280.

(平成24年11月9日受理)